

## &lt;別紙1&gt;

## 第三者評価結果報告書

## ①第三者評価機関名

株式会社R-CORPORATION

## ②施設・事業所情報

名称：ひばり保育園	種別：認可保育所
代表者氏名：久保田 ひろ子	定員（利用人数）：120名
所在地：〒214-0021 川崎市多摩区宿河原6丁目46番6号	
TEL：044-811-1255	ホームページ： <a href="https://www.hibari-ns.ed.jp/iroiro/">https://www.hibari-ns.ed.jp/iroiro/</a>
【施設・事業所の概要】	
開設年月日：1977年07月01日	
経営法人・設置主体（法人名等）：社会福祉法人 宿河原会	
職員数	常勤職員：29名 非常勤職員：11名
専門職員	（専門職の名称）：名 管理栄養士：2名
	保育士：24名 栄養士：1名
	看護師：1名 子育て支援員：5名
施設・設備 の概要	（居室数） 居室：0歳児室 設備：調理室
	居室：1歳児室 設備：遊戯室（ホール）
	居室：2歳児室 設備：医務室
	居室：3歳児室 設備：事務室
	居室：4歳児室 設備：沐浴室
	居室：5歳児室 設備：トイレ
	設備：更衣室
設備：園庭	

## ③理念・基本方針

## &lt;理念&gt;

こどもに夢を 保護者に安心を 子育てを応援します

## &lt;保育方針&gt;

- イ. 安全保育と健康増進
- ロ. 基本的な生活習慣の育成
- ハ. 集団生活のルールを身につける
- ニ. 豊かな感性と創造力の育成

## &lt;園目標&gt;

- 1. 明るく自分で考えて行動でき、思いやりのもてる子ども
- 2. 友だちと元気で遊べる子ども
- 3. 自分のことは自分でできる子ども

#### ④施設・事業所の特徴的な取組

〈ひばり保育園の特徴ある取り組み〉

- 日々の保育や行事、イベントを通して、周りへの思いやりや協調性、リズム感や運動能力等の健全な成長へとつなげていきます。
- バーチャルでは得られない実体験での「心の動き」を経験する事で子どもの感性を育みます。
- 子どもや大人、様々な年齢の人々が関わり合い、共に育ち合う保育を大切にしています。
- 保育を通して、コミュニケーション力や労いの心を育みます。
- 全職員で全園児を見守る気持ちを大切にしています。

#### ⑤第三者評価の受審状況

評価実施期間	2022年08月04日（契約日） ～ 2023年04月07日（評価結果確定日）
受審回数（前回の受審時期）	2回（2014年度）

#### ⑥総評

【ひばり保育園の概要】

●ひばり保育園の運営は、社会福祉法人宿河原会（以下、法人という）です。法人の保育事業では、昭和52年に第1号の当「ひばり保育園」を開設し、昭和56年には、同保育園に乳児保育（0歳児保育）を開始しました。さらに、待機児童解消のための一助として、平成19年に「ひばりっこくらぶ保育園」を開園し、平成25年には「こひばり保育園」を開設しました。3つの保育園は、同じ運営方針で互いに協力し合いながら、地域の子育てに大きく貢献しています。加えて法人は、地域の子育て支援の場としての「ひばりかんとりーくらぶ」を平成6年に開設し、会館の貸し出しや子育て支援等で地域に貢献しています。これらの運営施設は、JR南武線久地駅を中心として、全て徒歩圏内にあります。周辺は多摩川河川敷の平坦地で、肥沃な土地として多摩川梨の生産地としても知られていましたが、近年は都市化が進み、田畑は商業施設や住宅に変わりつつ活気が見られません。

●ひばり保育園は、園舎老朽化により、建て替え工事を令和4年12月から令和6年3月の予定で始めたところです。そのために、この第三者評価の調査は、仮園舎に移動して間もない時期の調査になりました。保育サービスの実施状況は、乳児保育、幼児保育、障害児保育、延長保育、一時保育を行い、0歳児12名、1歳児20名、2歳児22名、3歳児23名、4歳児22名、5歳児23名、計122名の園児が在籍しています。全職員で全園児を見守り、「日々の保育や行事を通して、周りへの思いやりや協調性、リズム感や運動能力、感性等の健全な成長」と「子どもや大人、様々な年齢の人々が関わり合い、共に育ち合う保育、コミュニケーション力や労いの心を育む」ことができる保育を目指しています。

◇特長や今後期待される点

1. 【職員が生き生きと働きやすい職場、利用者から信頼される保育園】

ひばり保育園は、園長の保育園に対する熱意、リーダーシップ力、権限移譲が明確であり、副園長・主任の忖度のない対応等、上層部のしっかりした体制が園の全容を物語ります。働きやすい職場とは、生涯設計等のキャリアデザインが明確になっていること、労働対価等労使契約が適正であること、職場のコミュニケーション・人間関係が円滑であること、が三大要素として挙げられます。ひばり保育園では、6階層別の「期待される職員像」を明示して人事管理が明瞭に行われています。職員の勤務は、シフト制では

なく固定勤務制を導入して、早出、延長保育時間の職員も固定され、子どもはいつもの安心感と心の安定を保って過ごすことができている。保育園を選ぶ実習生等は、働いている職員が生きがいを持って勤務していることを見て入職希望が膨らみます。保護者からは職員のポジティブな対応を見て、「ひばり保育園に預けて良かった」と利用者（保護者）アンケート結果からも安心を得る声が聞かれます。第三者評価での職員面接でも、これらの裏付けが得られています。

## 2. 【日々の保育、行事を通して育む資質・能力3本柱をかん養する保育】

ひばり保育園では、日々の保育や行事を通して、周りへの思い遣りや協調性、リズム感や運動能力等の健全な成長へとつなげ、バーチャルでは得られない実体験での「心の動き」を経験することで、子どもの感性を育む保育が行われています。園の発表会は1月下旬に行われましたが、調査訪問日、出席できなかった子どもに配慮し、再開されました。そこで4歳児の劇、「ともだちほしいなおおかみくん」を見学しました。日々の保育の中で子どもたちが練習を積み重ね、日ごとに顔つきも自信に満ち、自分の役に責任を持ち、最後までやり遂げる心の成長を、担当職員をはじめ他職員、園全体で育てています。

## 3. 【生きる力を蓄える食育保育活動の推進】

ひばり保育園は、専任栄養士3名で122名の園児の食育を担っています。新型コロナウイルス禍（以下、コロナ禍）の中で調理実習を実現できないことから、工夫をして補いながら食育に取り組んでいます。食育年間活動計画は、年齢別に0歳児から5歳児まで作成されています。例えば、0歳児4月～6月の食育のねらいは、「食べ物に興味を持ち、楽しみながら食事をする」ことです。職員の自己評価は、「進んで離乳食を食べることができている」です。5歳児10月～12月の食育のねらいは、「時間内に食べる」、職員の自己評価は、「就学に向けて時間を気にして食べるように声かけした」とあります。制約状況の中、お誕生日会、食育イベント、食育タイム、ランチルームとして行事食を実施し、12月の食育タイムでは、実際に冬野菜に触れて学びました。12月の給食日よりでは、冬至とカボチャについて、「風邪をひかない」、「長生きできる」等の話を紹介し、家庭の食育にもつなげています。

## 4. 【保護者との情報共有へさらなる取り組み】

今回、第三者評価での利用者（保護者）アンケートから、「懇談会や個別面談等での意見交換」、「送迎時の職員との会話や連絡帳・掲示物」についての不満が見受けられました。園では、送迎時の職員との会話や連絡帳等の他にICTの利用でコドモンアプリの導入・活用を実施していますが、今後さらに、保護者との情報共有に工夫・改善が望まれます。情報共有は、随時の双方向通信が理想であり、その機能を有したICTアプリで運営されていることも一考され、保護者との情報共有をさらに向上し、保育に対する安心感・信頼を高めていかれることを期待いたしております。

### ⑦第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

施設名：ひばり保育園

<評価（自己評価等）に取り組んだ感想>

この度、第三者評価を受審したことで、今後より良い保育園となるために取り組むべき課題を確認することができました。現在の保育について理解し、評価していただいたことはもちろん、何よりも私たちが大切にしている「全職員で子どもたちを見守り保育を行っている」という点についても評価をしてもらえたことが、より良い保育への意欲と

なりました。

今後も一層、保育の質を高め、子どもの主体的な活動につなげていきたいと思っております。

また、課題である保護者との情報共有に関しては、コロナ禍の収束の兆しが見えてきているので、発信方法を工夫しながらより丁寧に発信していくことで、保護者の安心感や信頼感を高めていきたいと思っております。

自己評価に取り組み、今までの実施内容やコロナ禍における実施内容を振り返る良い機会となりました。施設内での職員の自己評価、全体評価のすり合わせには、とても時間がかかりました。しかし、だからこそ職員全員で自分たちの保育を見つめ直し、改めて協議、検討をすることは非常に有益な時間となりました。

<評価後取り組んだ事として>

1. アンケート結果を踏まえて、ひばり保育園で行った保育を視覚的に伝達できるよう保育のドキュメンテーションを開始し、保護者に保育園での子どもの様子等を伝えていています。
2. 仮設園舎での生活がスタートしたと同時に、コロナ対策としての送迎対応を見直し、保護者にエントランス部分まで入室してもらえるようにしました。以前よりも丁寧に伝達が可能になり、送迎時の会話を通して、子どもの様子や成長について情報共有を行っています。
3. 職員の情報共有について、より情報や意識を共有できるよう書面での伝達だけでなく、会議の開催を増やし、定例化を目指しています。定例の会議を年間で策定しただけでなく、随時、必要に応じて会議等を行い、連携を取るようにしました。

## ⑧第三者評価結果

別紙2のとおり